

第49期 事業報告書

平成23年 1 月 1 日～平成23年12月31日



CONTENTS

株主の皆様へ	— 1
営業の概況	— 2
研究開発	— 3
会社が対処すべき課題	— 4
トピックス	— 6
業績の推移	— 8
貸借対照表の要旨	—10
損益計算書の要旨	—11
キャッシュ・フロー計算書の要旨	—11
株主資本等変動計算書の要旨	—12
剰余金の処分	—12
株式の状況	—13
会社の概況	—14
役員	—16
財務情報へのアクセス	—16

■表紙写真

KOKEN は、『クリーン、ヘルス、セーフティ』を事業領域とし、様々なシーンでのソリューションを提供しています。

上段：プレスリンクプロワーマスク「サカイ式BL-1005」

中段：オープンクリーンシステム「フロアーコーチEz」

下段：感染対策用マスク 左「ハイラックうつさんぞ」
右「ハイラックかからんぞ」

株主の皆様へ

興研の平成23年は「東日本大震災」と「スーパークリーン」の2つの言葉で語り尽くされます。

当社は大地震に対し人的被害も、物的被害も殆どないという幸運に恵まれ、そのうえ津波や原子力発電事故対応製品の緊急受注さえ生まれました。震災によって人々や企業が運不運の対極に立たされたというのが平成23年であったと思われます。

当社が幸運の側に立たせてもらったことに感謝して、震災直後の3月に被災者や避難者の為に義援金2千万円の寄付をさせて頂いたのですが、その一方こうした受注にお応えして被災地で活動される人々に安全をお届けすることこそ当社の使命と考え、全社を挙げて供給に努めました。

しかしながら、当社の製品はこうした緊急増産には必ずしも適していないことが判りました。こうした需要に対応することは設備・陣容・製品価値等々の面で平時や長期的観点から見た理想形とは矛盾する面が多く、当社の大きな課題であることを改めて知らされました。とは言え、新技術でより安全で快適なマスクを提供するという当社の開発方針を変える訳にはいきません。その方針を維持する中で供給力の問題をどう克服するかチャレンジしていきたいと思えます。

一方「スーパークリーン」については、ガイドスクリーン技術の開発によってルーム型クリーンゾーンが作られるようになった上、ナノファイバーフィルタ「FERENA（フェリナ）」の製造上の問題を解決できたことで、オープンクリーンシステム「KOACH（コーチ）」全シリーズがスーパークリーンに生れ変わりました。これにより、従来数十億から数百億円をかけ、なおかつ複雑で厳重な管理をしなければ達成できなかった清浄度ISOクラス1～3というスーパークリーンルームが1億円以下で簡単に使用できるものになりました。そして昨年12月、セミコン・ジャパン展に出展したところ非常に高い注目を集めました。そうした方々の中で、東京大学宇宙線研究所様から「フローアーコーチEz」と「テーブルコーチ」を受注することとなりました。発売したばかりの両機の1号機が世界最先端の研究施設で採用されたことは、当社のクリーンビジネスが今後順調に発展していく兆しと心弾む思いであります。

多くの課題や希望を生み出した平成23年でしたが、当社は今後も他社にない技術によって、より強い企業になることを目指すよう努力を続けたいと思っております。

株主の皆様には今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年3月



代表取締役会長

酒井真一郎

(登記名 真一)



代表取締役社長

酒井宏之

営業の概況

営業の経過及び成果

当事業年度におけるわが国経済は、平成23年3月に発生した東日本大震災によって、企業活動に大きな影響を受けました。その後、サプライチェーンの復旧により生産や輸出に回復の兆しが見られましたが、欧州財政金融危機に端を発する世界経済の減速懸念や円高の長期化等により、景気の先行きは不透明な状況で推移しました。

そのような状況の中で当社は、震災、原発事故対策用マスクの急激な需要拡大に対して、全社を挙げて最大限の供給に努めました。その結果、売上高88億79百万円（前事業年度比20.7%増）、営業利益11億66百万円（前事業年度比83.5%増）、経常利益11億12百万円（前事業年度比108.8%増）、当期純利益5億53百万円（前事業年度比31.4%増）といずれも過去最高を更新いたしました。

セグメント別の業績は以下の通りであります。

（マスク関連事業）

震災や電力供給の制約によって国内の生産活動は低下し、産業用マスクの受注減が見られた一方で、震災・原発事故対策用マスクの販売は約15億円に達し、売上高は80億70百万円（前事業年度比18.2%増）となりました。

（その他事業）

前事業年度に比べ医療施設向けホルムアルデヒド対策用換気装置の販売は減少したものの、全自動内視鏡洗浄消毒装置等の販売が伸び、売上高は8億8百万円（前事業年度比52.4%増）となりました。



震災・原発事故対策用マスク



全自動内視鏡洗浄消毒装置

設備投資及び資金調達の状況

当事業年度の設備投資は総額7億82百万円で、その主たるものは、狭山テクノヤード製造設備2億63百万円、群馬テクノヤード建物1億11百万円等であります。

当社は、運転資金の効率的調達を行うため、取引銀行5行と限度額32億円の当座貸越契約及びコミットメントライン契約を締結しております。

研究開発

当社の研究開発は、当社の事業領域である『クリーン、ヘルス、セーフティ』に対し、自由で独創的な技術開発とその多面的応用を目指して活動しております。そして未来技術の基礎開発・応用開発にプロジェクトチームを含めマトリックス型の研究体制を敷いております。なお、研究開発担当人員は68名、当事業年度の研究開発費は、総額5億3百万円であります。当事業年度中の主な開発製品は以下の通りであります。

◇プレスリンクブロワーマスク

高い安全性と快適性を生み出すプレス・シンクロナイズド・エアフローシステムを進化させた“高・シンクロ機能”を、全てのBLシリーズに搭載しました。向上した呼吸感知精度と呼吸追従性能が、フィルタやバッテリー消費の低減を実現します。

- ・「BL-701E」：福島第一原子力発電所の事故処理用として、放射性粉じんとヨウ化メチルガスに対応するマスクを開発し、東京電力様に納入いたしました。
- ・「BL-200」シリーズ：伝声器付きのマスクです。ナノマテリアル、石綿、溶接等の各作業に対応可能な豊富なバリエーションを備えております。
- ・「BL-1005」：静電フィルタを使用する世界初のブロワーマスクです。溶接作業用としてロングセラーの防じんマスク1005型の利点を継承しています。



◇オープンクリーンシステム「KOACH」

フルオープン型とルーム型のフルラインナップ化を行うとともに、ナノファイバーフィルタ「FERENA」を搭載することで、全「KOACH」のISOクラス1から3のスーパークリーン化を実現しました。

- ・テーブルコーチ：小さなクリーン空間を作る卓上型の「KOACH」で、手軽に持ち運んで設置ができます。
- ・フロアコーチEx、Ez：広いクリーン環境を求めて、トンネル形のガイドスクリーンを設置したルーム型のフロアコーチです。

極めて短時間で夢のようなスーパークリーンを実現します。



会社が対処すべき課題

マスク関連事業においては、国内の産業用マスクトップメーカーとしての地位を一層強固なものにするとともに、医療分野における感染対策用マスクのシェア拡大を図って参ります。

その他事業（環境関連事業）においては、強酸性電解水をはじめとした当社独自の技術によって、医療分野を第2の柱に育成するとともに、オープンクリーンテクノロジーという考えに基づく気流制御とナノファイバーフィルタ製造という2つの世界初の新技術を用いて、クリーン分野での成長に挑戦して参ります。

【マスク関連事業】

①電動ファン付き呼吸用保護具は、国家検定化が近々予定されており、市場の拡大も予想されます。当社の電動ファン付き呼吸用保護具「プレスリンクブロウーマスク」は、その安全性、経済性、実用性が評価され、トンネル、溶接、石綿作業をはじめとした様々な市場で使用されています。今後も世界で初めて呼吸を感知してファンで送風するマスクを開発したメーカーとしてその強みを生かし、需要拡大に対応して参ります。



電動ファン付き呼吸用保護具

②医療施設における感染対策は、医療従事者の身を守るだけでなく、入院患者や来院者への拡大を防ぐ意味でも重要であり、施設の大半では感染対策用としてのマスク着用が定着しています。しかしながら、感染を防ぐためのマスクは、フィルター性能以上に、顔へのフィット（密着）が重要であるとの認識は、まだまだ不足していると思われます。当社はこれまで、保健所や感染症指定医療機関に対して、感染対策用マスク「ハイラックうつさんぞ」「ハイラックかからんぞ」の使い分けの提案とともに、正しいマスクの使用方法やフィットの重要性の啓発活動を続けております。これらの活動は、強毒化が懸念されている新型コロナウイルスへの備えになることでもあり、マスクメーカーの使命として今後も継続していく所存です。



感染対策用マスク



がれき処理・除染作業用マスク

③現在、東日本大震災と原発事故で被災した地域では、早期復興に向けたがれき処理や除染作業が続けられています。当社はそうした復興作業を安全に行っていただくためのマスクの供給に努めるとともに、汚染物質

の種類や濃度、そしてその作業内容等を考慮した適切なマスクの提案を行って参ります。

④当社は、平成24年3月7日付けで、デュポン(株)、アセアス(株)との3社間で共同事業に関する覚書を締結いたしました。今後、国際的防護服ブランドであるデュポン社製タイバックと当社製マスクを融合させることで緊急対応用、復旧作業用として、より安心、安全で利用しやすい製品の開発や安全の啓発活動に取り組んで参ります。

【その他事業（環境関連事業）】

①昨年当社は、オープンクリーンシステム「KOACH」のフルオープン型を拡充するとともに新たにルーム型を開発し、「KOACH」シリーズのフルラインナップ化を実現しました。またナノファイバーフィルタ「FERENA」を搭載することで、「KOACH」シリーズ全機種において、ISOクラス1から3のスーパークリーン化を実現しています。「KOACH」と「FERENA」を組み合わせることで、廉価で、どこにでも簡単に導入でき、実に使いやすいスーパークリーン空間を作り出します。今後当社は、これまで高嶺の花であったスーパークリーンが産業技術や研究開発のコモディティになることを目指しています。



オープンクリーンシステム



ナノファイバーフィルタ



ホルムアルデヒド用換気装置

②環境改善事業は、産業、医療の両分野とも、これまでの実績から高いご評価をいただき、安定的な受注を得ている事業です。しかし産業分野は、好不況の影響を受け易いため、見通しを付け難い分野でもあります。そこで当社は“医療分野を第2の柱に育成する”という経営目標を掲げ、その実現に努めているところであります。



全自動内視鏡洗浄消毒装置

③医療の現場には、病原菌、ウイルス、消毒剤、滅菌ガスなど、健康に害を及ぼす様々なリスクが存在しています。当社はそうした健康リスクを独自の技術によって低減する全自動内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍（かがみないし）」やホルムアルデヒド用換気装置「ラミナーテーブル」等を開発・販売し、高いご評価をいただいております。今後も「鏡内侍」のファンづくりや「ラミナーテーブル」等の販売に取り組んで参る所存です。

トピックス

東日本大震災復興に向けた支援活動を行いました

【寄付・寄贈】

当社は、被災者の支援及び被災地の復旧・復興活動にお役立ていただくため、震災直後に日本赤十字社を通じ2千万円の義援金の寄付と当社製使い捨て式防じんマスクハイラックシリーズ約20万枚の寄贈を行いました。

【呼吸保護の啓発活動】

がれきに含まれる石綿、ダイオキシン等の危険性やフィット性の高いマスクの必要性を啓発するため、各自治体に保護具アドバイザーを派遣し※、マスク講習を実施いたしました。

※公益社団法人日本保安用品協会の活動として



《当社製使い捨て式防じんマスク「ハイラック」を装着しての講習会》

ボランティアセンターで実施したフィットテスト講習会の参加者の方々は、「ハイラック」のフィット性の高さに驚かれ、またサージカルマスクは漏れが極端に大きく、N95レスピレーターやDS2マスクも種類によっては、漏れ率が大きくなることに関心を寄せておられました。「用途によるマスクの使い分けやフィットの重要性を知ることができて良かった」との声をいただきました。

このような活動に対し、自治体、関係機関等から、感謝の言葉が多数寄せられています。

KOACHショールームを開設

「KOACH」によるクリーンルーム革命を実感していただくため、東京、大阪、福岡にショールームを開設しました。各ショールームでは、フロアーコーチ、オープンクリーンベンチ、連続コーチ、テーブルコーチ等が設置されており、その清浄度を実体験することができます。



スーパークリーンテクニカルセンター

また、大型クリーンルームの展示と実証・実験のために埼玉県狭山市にスーパークリーンテクニカルセンターを開設しました。



東京ショールーム



大阪ショールーム



九州ショールーム

技術・IR説明会を開催

平成23年12月、株式会社大阪証券取引所がJASDAQ上場企業のIR支援として開催している「機関投資家・アナリスト向け技術IR説明会」に参加しました。

当日は、28社38名の機関投資家、アナリスト及び市場関係者にご参加いただき当社の技術力に対する高いご評価と分かりやすい技術説明であったとのご感想もいただくなど、大変盛況な説明会になりました。

特許価値評価指標※	当社ランク	
	全上場企業 (約3,600社)	JASDAQ上場企業 (約1,000社)
YK値（競争力）	367位	8位
QK値（成長性）	22位	7位

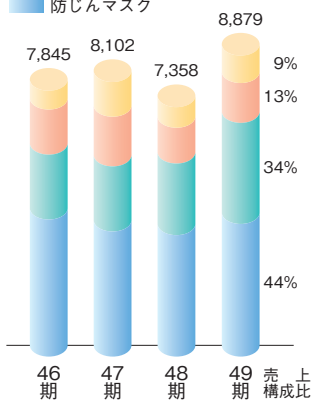
※工藤一郎国際特許事務所が独自に開発した指標

詳細については、同事務所のホームページをご覧ください。

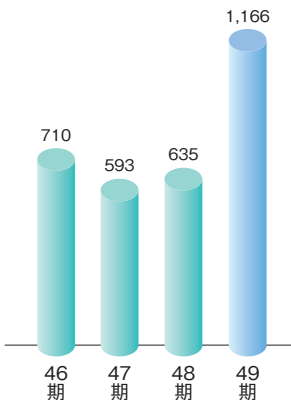
業績の推移

■売上高（百万円）

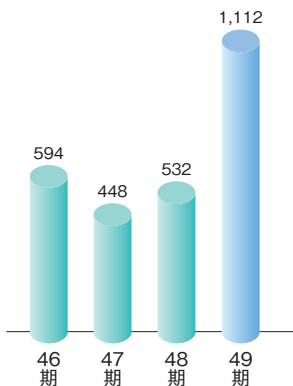
- その他事業
- 防じんマスク・防毒マスク関連その他製品
- 防毒マスク
- 防じんマスク



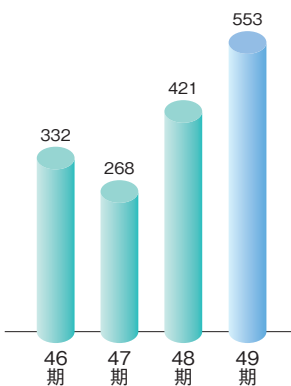
■営業利益（百万円）



■経常利益（百万円）

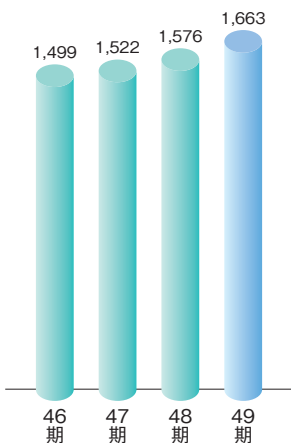


■当期純利益（百万円）

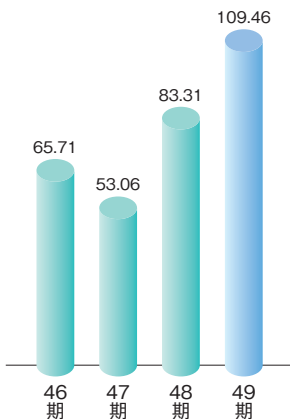


（注） 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

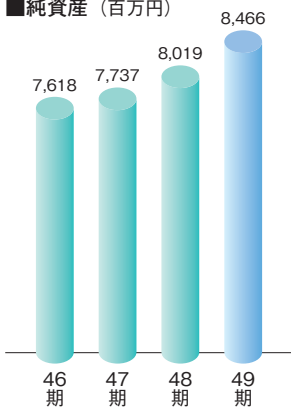
■ 1株当たり純資産額（円）



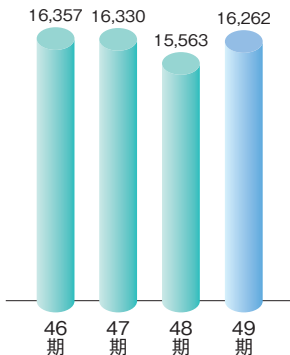
■ 1株当たり当期純利益（円）



■ 純資産（百万円）



■ 総資産（百万円）



（注） 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

科 目	当事業年度 (平成23年12月31日現在)	前事業年度 (平成22年12月31日現在)	前事業年度比 増減額
●資 産 の 部			
流 動 資 産	6,854	6,337	516
現 金 及 び 預 金	1,048	1,809	△761
受 取 手 形	1,171	1,116	54
売 掛 金	2,787	2,102	684
た な 卸 資 産	1,416	1,068	347
そ の 他 の 流 動 資 産	434	244	190
貸 倒 引 当 金	△4	△4	-
固 定 資 産	9,408	9,225	182
有 形 固 定 資 産	8,208	7,998	209
無 形 固 定 資 産	33	29	4
投 資 そ の 他 の 資 産	1,165	1,197	△31
資 産 合 計	16,262	15,563	699
●負 債 の 部			
流 動 負 債	5,042	5,009	32
買 掛 金	210	144	66
短 期 借 入 金	2,100	3,100	△1,000
1年内返済予定の長期借入金	1,244	1,128	116
未 払 金	211	159	52
設 備 関 係 未 払 金	179	-	179
未 払 費 用	161	132	29
そ の 他 の 流 動 負 債	934	345	589
固 定 負 債	2,754	2,534	219
長 期 借 入 金	2,070	1,891	178
そ の 他 の 固 定 負 債	683	642	41
負 債 合 計	7,796	7,543	252
●純 資 産 の 部			
株 主 資 本	8,416	7,988	427
資 本 金	674	674	-
資 本 剰 余 金	528	528	-
利 益 剰 余 金	7,255	6,827	427
自 己 株 式	△41	△41	0
評 価 ・ 換 算 差 額 等	△1	△13	12
その他有価証券評価差額金	△1	△13	12
新 株 予 約 権	51	44	7
純 資 産 合 計	8,466	8,019	446
負 債 ・ 純 資 産 合 計	16,262	15,563	699

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書の要旨

(単位：百万円)

科 目	当事業年度 (平成23年1月1日から 平成23年12月31日まで)	前事業年度 (平成22年1月1日から 平成22年12月31日まで)	前事業年度比 増減額
売上高	8,879	7,358	1,520
売上原価	4,672	4,086	586
売上総利益	4,206	3,272	934
販売費及び一般管理費	3,039	2,636	403
営業利益	1,166	635	530
営業外収益	36	23	12
受取利息	0	0	0
その他の営業外収益	36	23	12
営業外費用	90	126	△36
支払利息	70	81	△11
その他の営業外費用	19	45	△25
経常利益	1,112	532	579
特別利益	－	247	△247
特別損失	100	45	55
税引前当期純利益	1,012	735	276
法人税、住民税及び事業税	589	225	364
法人税等調整額	△130	89	△219
当期純利益	553	421	132

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位：百万円)

科 目	当事業年度 (平成23年1月1日から 平成23年12月31日まで)	前事業年度 (平成22年1月1日から 平成22年12月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	630	1,092
投資活動によるキャッシュ・フロー	△530	△170
財務活動によるキャッシュ・フロー	△860	△779
現金及び現金同等物の期末残高	1,048	1,809

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書の要旨

(平成23年1月1日から平成23年12月31日まで) (単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金		その他利益剰余金		
					別途積立金	圧縮記帳積立金	繰越利益剰余金
平成22年12月31日残高	674	527	0	168	5,886	27	745
事業年度中の変動額							
別途積立金の積立					200		△200
圧縮記帳積立金の取崩						△1	1
実効税率変更に伴う準備金の増加						1	△1
剰余金の配当							△126
当期純利益							553
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)							
事業年度中の変動額合計	-	-	-	-	200	0	226
平成23年12月31日残高	674	527	0	168	6,086	28	972

	株主資本		評価・換算差額等	新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金		
平成22年12月31日残高	△41	7,988	△13	44	8,019
事業年度中の変動額					
別途積立金の積立		-			-
圧縮記帳積立金の取崩		-			-
実効税率変更に伴う準備金の増加		-			-
剰余金の配当		△126			△126
当期純利益		553			553
自己株式の取得	△0	△0			△0
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)			12	7	19
事業年度中の変動額合計	△0	427	12	7	446
平成23年12月31日残高	△41	8,416	△1	51	8,466

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

剰余金の処分

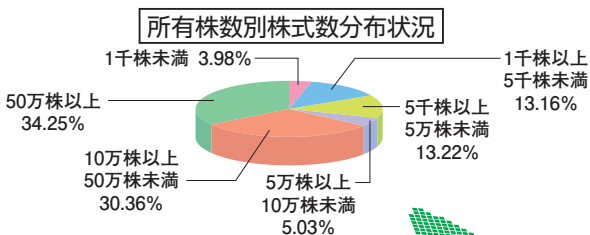
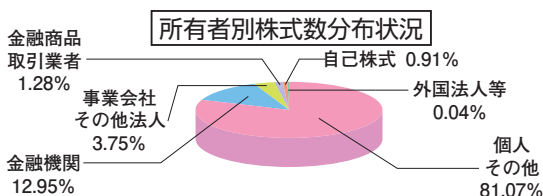
- 期末配当に関する事項
 - ①配当財産の種類
金銭
 - ②配当財産の割当に関する事項及びその総額
配当総額 177,010,330円 (1株につき35円)
※普通配当25円 特別配当10円
 - ③剰余金の配当が効力を生じる日
平成24年3月28日
- 剰余金の処分にに関する事項
 - ①増加する剰余金の項目とその額
別途積立金 3億円
 - ②減少する剰余金の項目とその額
繰越利益剰余金 3億円

株式の状況 (平成23年12月31日現在)

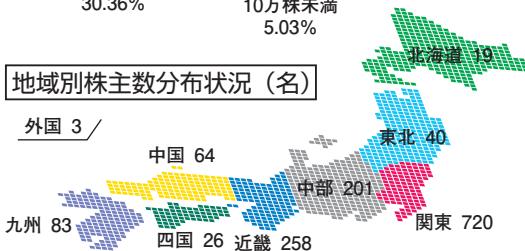
◆発行可能株式総数	20,000,000株
◆発行済株式の総数	5,104,003株
◆株主数	1,414名
◆資本金	674,265,291円
◆単元株式数	100株
◆大株主（上位5名）	

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
酒井 眞一	890,000	17.60
酒井 宏之	858,400	16.97
(株)りそな銀行	244,300	4.83
酒井 香織	229,600	4.54
酒井 理絵	229,600	4.54

(注) 持株比率は自己株式（46,565株）を控除して計算しております。



地域別株主数分布状況（名）



会社の概況 (平成23年12月31日現在)

◆主な事業内容

当社は、防じんマスク、防毒マスクなどの労働安全衛生保護具及び環境関連機器・設備の製造、販売を行っています。

◆従業員数

215名

◆主な事業所及び工場

本 社	東京都千代田区四番町7番地
狭山テクノヤード	埼玉県狭山市広瀬台2-15-33
群馬テクノヤード	群馬県みどり市笠懸町久宮381-1
所沢テクノヤード	埼玉県所沢市城858-1
中井テクノヤード	神奈川県足柄上郡中井町井ノ口2442-12
飯 能 研 究 所	埼玉県飯能市川寺568
埼玉配送センター	埼玉県比企郡嵐山町花見台3-3

本 社



群馬テクノヤード



ISO 14001環境マネジメントシステム審査登録

狭山テクノヤード



所沢テクノヤード



ISO 14001環境マネジメントシステム審査登録

中井テクノヤード



ISO 14001環境マネジメントシステム審査登録

飯能研究所



◆営業拠点



◆品質保証体制

ISO 9001品質マネジメントシステム全事業所一斉審査登録

登録番号：JSAQ 405

適用規格：JIS Q 9001: 2008, ISO 9001: 2008

登録日：1999年1月4日

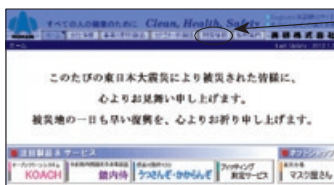
役員 (平成24年 3 月27日現在)

代表取締役会長	酒	井	眞	一
代表取締役社長	酒	井	宏	之
代表取締役副社長	山	里	洋	介
常務取締役	村	松	光	二
常務取締役	秋	山	俊	雄
常務取締役	堀	口	展	也
常務取締役	村	川		勉
常務取締役	田	中	文	和
常勤監査役	小	山	悦	男
常勤監査役	下	坂		正
監査役	江	見	弘	準
監査役	河	合		之
執行役員	伊	藤	善	博
執行役員	齋	藤	雄	司
執行役員	木	村	一	志
執行役員	長	坂	利	明
執行役員	飯	田	英	之

財務情報へのアクセス

ホームページ <http://www.koken-ltd.co.jp/>

- ①アドレスを入力してください。
- ②財務情報をクリックしてください。
- ③スクロールしながら、各情報をご確認ください。



財務情報
クリック

項目	2012年度	2011年度	2010年度	2009年度
売上高	1,000	1,000	1,000	1,000
営業利益	100	100	100	100
経常利益	100	100	100	100
純利益	100	100	100	100
株主総数	100	100	100	100

株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日
定時株主総会	3月
基準日	12月31日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	同上
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711（フリーダイヤル）
上場証券取引所	大阪証券取引所（JASDAQ）
公告の方法	当社ホームページに掲載 http://www.koken-ltd.co.jp/ ただし、やむを得ない事由にて電子公告が行えない場合は、日本経済新聞に公告いたします。

各種手続きについて

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、口座管理機関の三菱UFJ信託銀行までお問い合わせください。
なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
（お問い合わせ先）
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 - ・連絡先 0120-232-711（フリーダイヤル）
 - ・ホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>
 - ・電話による用紙請求（24時間自動音声応答サービス）
0120-244-479（フリーダイヤル）
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



Clean, Health, Safety

クリーン

ヘルス

セーフティ